

CAVOK V 航海日誌 2013年 #8

9/14Kale Koy~10/20Kemer

2013年10月24日 松崎義邦氏メール

皆様に

皆様のお蔭でキプロス島往復を最後に今年の航海も無事終了しました。

9月後半からは、安定した天候の中、ヨットには最適な泊地が点在している南トルコ、リキヤ海岸ケコワから東のケメルに向かいました。

9月4日より乗船したハリエットさんと3人の航海で途中の入り江に錨泊したり、マリーナに停泊して内陸を観光したりしながら9月20日にケメルに着きました。ケメルは海岸近くに山が聳えたち、そして海は透き通り美しい海辺のリゾート地です。マリーナの両サイドは海水浴場でパラソルが一杯並び泳ぐのが日課になりました。

ケメルでは、ロシア人のLisaさんも一緒に夜行バスを利用して2泊4日のカッパドキア観光にも行ってきました。カッパドキアでのバルーンからの景色は見事でした。カッパドキア観光旅行の後、ヨット部2年後輩の上田佐和子さんが春に続き、キプロス島への航海に参加しました。

10月に入ると、こちらも秋らしい天候になり前線の通過があり、半年ぶりの雨が降りました。上田さんとイスタンブール在中の奥村純代さんが乗船してくれたのでキプロスからの帰りは、途中の寄港地を端折って160海里的距離を一昼夜の航海で渡る事が出来ました。

キプロス島ではビザンチン時代に築城されたキレニア城や、又城内にある博物館では2300年前にロードス島からの帰りに沈没した沈船の展示を見ることが出来ました。南、北キプロス共和国の境界線に建っている英国統治下時代の歴史ある建物の中も、住んでいる方の好意でお邪魔する事が出来、当時の面影を見ることが出来ました。

トルコはビザの管理が厳格でキプロスへの出国の際には、ビザが必要になり急遽1年間の滞在ビザを取ったりもしました。

ケメルの周辺には古代からの遺跡が沢山あり、保存状態も大変良くローマ時代の遺跡を見て回り、又トルコ人のお友達も出来て彼の家に呼んで頂き、トルコのお家庭でのお食事もご馳走になりました。

本来はDidimでCAVOK5は今年の冬を過ごす予定でしたが、マリーナも充実していて、すっかりここが気に入ったのでキプロスへの航海を最後に冬季、艇をケメルに置くことにしました。

今年の航海では春にクレタ島でクラッチが故障して約1か月程足止めになりましたが、その後は順調な航海で一緒した方と楽しい航海が出来ました。

そしてトルコの方は親切で、特に日本人には大変好意をよせてくれます。そしてトルコ在中の日本人やトルコの方のお世話になった航海でもありました。

今年で4年のヨーロッパクルーズになりますがオランダからトルコ迄約250の泊地を訪ね、約1万海里の航海をしました。

本来ならレバノン、イスラエル、エジプトと足を延ばしたいところですが政情不安定なため今回は諦めてキプロス島までの航海でした。

今年迄駆けずるようヨーロッパを廻ったので、来年からは気に入ったところでゆっくりしながらクルージングを続けたいと思っています。

皆様の応援で無事今年の航海も終わることが出来たことを感謝いたします。

今年も長い間のご拝読ありがとうございました。

Kemerにて

CAVOK5 松崎義邦

航海日誌 2013年 #8

9月14日（土曜日）Kale Koy（快晴）西の強風

今日の風は西風が20ノット以上吹く予報だったのでここでもう一泊することにした。

朝食後暑くなる前に岩壁の上にそそり立つビザンチン時代のお城に登る。ケコワ湾が一望出来て素晴らしい景色だ。お昼前より風が強くなり湾内も白波が立ち始める。艇内暑いので風通しの良いレストランでインターネットでの作業をする。



お昼はパスタを頂く。このパスタはトルコ産のパスタだったがパン同様美味しかった。トルコ産の小麦が美味しいようだ。風が強いがガツレタ船は白波にもめげず観光客を乗せて動いている。

Kalkanで一杯ご馳走になったチャーターボートのドイツ人の4人のグループと再会する。前回のお返しに日本酒を持って彼らの艇に訪問する。

彼らの一人はポリスでポリスの名前が入ったキャップをプレゼンしてくれた。このキャッ

プをかぶって歩けばもう二度とスリと会うことは無いと思う。とっても愉快的な陽気な仲間たちであった。

夕食は今晚もこのレストランで食べる。メゼとサラダ、エビのグリルとタイのグリルと食べたがメゼは別にして焼き物は、鮮度含めて大した料理ではなかった。でも気持ちの良い家族たちで、レストランでコンピューターをいじっているとチャイをサービスしてくれたりした。

夜になると風も治まりゆっくり寝ることが出来た。

9月15日（日曜日） Kale Koy ~ Karaloz(6NM) 快晴 微風

今日はケコワ湾の外にある Karaloz の入り江に行く。ここはパイロットブックに拠るとクリスタルにクリアな海だと書いてあるので行くことにした。又奥まった入り江で安全な泊地である。

朝食後10:10に舳いを解くがレストランの家族、ドイツ艇の人たちが見送ってくれる。



Karaloz の入り江は奥深く最初は1艇も停泊している艇が見えなかったが奥に入るとヨットとガレット船が船尾を岩壁に舳いて停泊していた。

我々もアンカーを打って船尾を岩壁に舳おうとしたが隣のガレット船の船長がもっと対岸の近くに打てと教えてくれたので打ちかけたアンカーを再度打ちかえる。

彼は親切にテンドーで来てくれ船尾の舳いを岩壁に取ってくれた。お礼に

日本からのお土産を持って行くとトルコ人は皆日本人が好きだとフレンドリーに行ってくれる。早速クリスタルブルーの海で泳ぐ。アンカーを潜ってみると8mの海底の砂にしっかり食い込んでいた。

お昼はソーメンを頂き、お昼寝をする。私は岩壁に登り上から CAVOK5の写真を撮る。

夕食はサラダ、パスタ、ビーフステーキを赤ワインで頂く。月が段々丸くなり月明かりが綺麗だ。夕食後暫くしてムーライトスイミングをすることにして、皆さん自然のままの姿になり月夜の海を泳ぐ。静かで素晴らしい入り江での夜だった。

9月16日(月曜日) Karaloz~Finike (15NM) 快晴 南10ノット

今日も青空の良いお天気の中、朝を迎える。穏やかな天候の中の錨泊は気持ちが良い。朝食を食べてから又泳ぐ、水温も丁度良く、海水もきれいなので何時までも泳いでいられる。小魚が群れをなして泳いでいる。

これからの航海はマリーナに寄るので取りあえずラバーボートを揚げて出港の準備をする。岩壁の舳いを外してから、11:00にアンカーを揚げて入り江を出ていく。今日のレグも15NMと短いので早速セールを揚げてセーリングする。当初弱い南風だったが段々良い風になり4~5ノットの速度でノンビリ走る。女性陣はそれぞれコックピットやキャビンで昼寝をしたり読書をしたりしていた。

お昼はきつねうどんをビールで頂く。いつもの楽しみだ。悦子が三食料理を作ってくれるので航海の食生活も充実していて本当に助かる。南風が強くなってきた頃に Setur Marina Finike に着く。VHF で連絡するとラバーボートでスタッフが来て舳いを取ってくれた。

Setur Marina はトルコのグループのマリーナで9か所程マリーナを持っている。そのうち6つの Setur Marina に我々は停泊した。施設のしっかり整った良いマリーナだ。Finike は昔フェニキア人で栄えた町なので船乗りには馴染みを感じる。

錨泊が続いたので食料も不足してきたので町のスーパーマーケットに買い物に行くが、帰りスーパーマーケットの店員が車でわざわざ送ってくれた。

久しぶりのマリーナのシャワーを浴びるが気持ち良い。その後のビールが喉を潤してくれた。ここはランドリーがあったので洗濯物を出す。

夕食は野菜サラダ、ニンジンガーリック風味サラダチ、そしてキンポトフをご飯と頂く。トルコ産チャンカレ白ワインも中々であった。

9月17日(火曜日) Finike 快晴 強風

朝方は静かであったが昼前より南の風が強くなる。予報以上の風だ。今日は一日ここでゆっくり過ごす予定で午前中のんびりする。

バザールが町あるとの事でお昼を食べがてら町に出るが小さな町で大したバザールではなかった。この辺りは農業の産地でフレッシュな野菜果物が沢山ありそれを仕入れる。帰りにロカンタ(定食屋)によってお昼を食べるが安くて美味しい。残念ながらロカンタにはアルコールは置いてない。

艇に戻り昼寝をした後マリーナの外に海水浴用のプラットフォームがありそこでハリエットと泳ぐ。その後トルコに来て私は初めてになるがハمامに行く。垢すりの人が貴方の垢はこんなに出土と見せてくれた。地元のハمامでの垢すり、マッサージをしてもらい35TL(1800円)であった。

夕暮れにはハリエットさんのブルを私が作る。レモン、砂糖、ジン、ビールでつくるが美味しい。

夕食はここで仕入れた野菜のサラダ、ラトーユ、オレンジソースのチキンカツを白ワインで頂く。月は満月の前日で月明かりで食べる夕食は絶品だった。

9月18日(水曜日) Finike (快晴)午後風強し

天気予報では未だ午後風が強く吹くのもう一日ここで停泊することにする。

朝食は9時前にゆっくり食べてのんびり各自本を読んだりして過ごす。デッキの水洗いを暫くしてなかったのを洗い流す。チークデッキは汚れも吸い込むせいかデッキブラシで洗うと結構汚れが出てくる。

お昼にスパゲティーポロネーズをビールで頂く。食事は夕食含めて今まですべてコックピットで食べている。直射日光だけ避ければ非常に心地良い気象だ。 午後は3人でハママを楽しむ予定で町を散歩してから行くが火曜日だけ女性が入れる日との事で諦めて帰る。

夕暮れのイブニングキャップをハリエツさんのブルで楽しむ。秋の気配か今日は久しぶりに上空に千切れ雲が出てこれが夕焼けになって美しい光景になった。 隣の艇がドイツ艇からニュージーランド艇に代わりこれから2年かけてニュージーランド迄航海していくそうだ。

別のドイツ艇からは次の錨泊を予定している入り江についての情報を聞く。丁寧に教えてくれる。どうしても知らない土地なので用心深くなり一つの情報だけでなくあれこれ聞く習慣がついてしまっている。

夕食はトルコでは豚が食べれないのでチキンカツ丼をフレッシュなヤサイサラダと一緒に頂く。Finike のこの辺りは農業の盛んな所で野菜、果物が新鮮そのもので美味しい。 明日は風も落ち着くので Kemer の手前の Cinevis Limani に錨泊して満月の月を見る予定だ。

9月19日(木曜日) Finike~Cineviz Limani (27NM) 晴れ 南5~10ノット

朝食後泊地情報を教えてくれたドイツ艇にお礼を言って08:40に舳いを解きハーバー内にあるガソリンスタンドで軽油を給油と同時にゴムボート用のガソリンも買う。 軽油はマリマリスを出港して以来62Lの使用で燃費は 2.2L/HR で経済的であった。

いつも昼ごろから南風が強く吹く3時過ぎが一番強くなるのでその前に泊地に到着してアンカーを打つ予定なので機帆走で7ノットをキープする。

Cineviz の小さな湾に入るとガレット船が7隻停泊している。アンカーの打つ場所を考えて沖留めしているガレット船の脇にアンカーを13:30に打つ。 この入り江は西側に高い岩壁があり又東も岩壁で囲まれている良い泊地だ。 底は砂利、サンドで場所によってはアンカーの効きに注意とパイロットブックに書いてあるのでアンカーリングに気を遣い水深8mの所にアンカーを打つ。

お昼はドライカレーをビールで頂き、暫く昼寝してその後泳ぐ。海の色はターコイズ ブルーで幻想的だ。 停泊していた数隻のガレット船が出て行ったが、暫くして他のガレット船が続々入ってきた。人気のスポットの様だ。我々が来たときにはヨットはいなかったが、その後2隻入ってきて隣にアンカーを打った。

フニケを出て暫くして岬を回ると東に面した海岸線になるがこの海岸線の西側はフィヨルドの様に岩壁がそそり立ち、その奥には2365mの Tahtali 山が聳えている。冬はスキー場になるそうだ。500m はありそうな岩壁の直下にアンカーリングしたが、地中海でなく北欧のアンカレージに錨泊しているようであった。

この入り江は東側も岩壁に囲まれ満月の月が出るのは大分遅くなった。 夕食は静かな幻想的

な入り江で、赤ピーマンのアピタイザー、トマト、胡瓜とグリーンオニオンの野菜サラダをザクロのドゥッシングで、ナスのオイスター炒め、赤ピーマンのマッシュポテトとひき肉のキャセロールをトルコ産赤ワインで頂く。

トルコはザクロの名産地なのか至るところにザクロがあり、初めてザクロのドゥッシングでサラダを食べるが甘みと渋みが上手くマッチングして美味しく頂いた。

この時期になると日が沈むと涼しくなるが海水温度が高いので湯食後ムーンライトスイムを前回に続いて楽しむ。

9月20日(金曜日) Geneviz~Kemer (16NM) 晴れ 南5~10ノット

朝錨泊していたガレット船が出た後、昼前に新たなガレット船が来るので彼らのアンカーと交差しないようにアンカーを打ちかえる。結構アンカー打ちは深さ、底の質、他艇との関係等々考えると難しい。朝食後一休みして海岸迄泳ぐ。海岸は砂利で色々な石の砂利があり色の良い石を集める。

お昼をソーメンで頂いてから13:20に抜錨して Kemer に向かう。斜め横からの5~10ノット風を受け4~5ノットの速度で気持ち良いセーリングも楽しむ。ケメルの後 Antalya に行く予定だったが Antalya のマリーナはうるさくて係留料も84ユーロと高いのでアンタリヤに行くのは止めてケメルに艇を暫く繋留してカッパドキア旅行に行くことにする。因みにここの係留料は48ユーロだ。

ハッピーアワーのレストランがあったのでそこでビールを飲んで渴きをいやす。マリーナに隣接したマーケットで新鮮な野菜を仕入れる。ここのマリーナはガレット船の基地でもあり人の行き来も多い。直ぐ近くに険しい山が聳えていて景観も良く、町も近く便利そうで気に入った。

夕食はハリエツさんの野菜サラダ、ナスの炒め物、昨日の残りのキャセロールを赤ワインで頂く。まだ月夜が綺麗だ。夜中2時過ぎまでコックピットで過ごす。

9月21日(土曜日) Kemer 晴れ



Kemer に来てから毎日山からの雲を見る様になった。千切れ雲が太陽を遮ってくれれば日陰になり丁度良い感じになる。

最初の予定では次のマリーナのアランヤで停泊してカッパドキアに行く予定であったが、周りの環境も良くマリーナもしっかりしていてスタッフも親切だったので当初からすっかり気に入った。

係留料もアランヤより安いのでアランヤに行くのを止めて、ここに10日ほど停泊することにした。アラ

ンヤは大きな街で歴史的遺産もあるのでバスで行くことにする。

ケメルは小さな町だがトルコ屈指の一大リゾート地になっていてマリーナの両サイドには長い海水浴場が広がり、まだまだ沢山の海水浴客がいる。

町にはショッピングアーケードが立ち並び道を尋ねて居たら日本語をしゃべるトルコ人が話しかけてきた。日本語がペラペラで奥さんは日本人で日本に16年居たそうだ。

イスタンブールではよくいる片言の日本語をしゃべり親切そうにして結果自分の店に連れて行く手口の人とは全く違っていた。ケメルは殆ど日本人が来ないので日本語を聞いて懐かしくて話しかけたそうだ。

我々はカッパドキアに行く夜行バスの切符を購入したくバスターミナル(オトガル)への行き方を聞いたのだが結局彼が車で連れて行ってくれ、購入まで手伝ってくれた。ケメルからは直接カッパドキア行のバスが無いと思っていたが一社だけありそれを探してくれて助かる。

お昼は彼が知っているケバブの美味しいお店を案内してくれそこで4人で食べる。私は鶏のレバーのケバブを頼むが日本の焼き鳥に似て美味しかった。この周辺は風光明媚なものと歴史的遺産があるので明日レンタカーを借りて回ることにしてレンタカーの予約をする。

彼はブランドさんと云い、奥さんは日本に里帰り中で会うことは出来なかったが、彼を日本食の夕食に誘う。マリーナまで彼に送ってもらい。私は海で泳ぐ。泳いだ後が気持ち良い。シャワーを浴びて歩いていると2夫婦のグループの一人が話しかけて来た。何と二日前に Cineviz でアンカーリングしているとき後から来て横にアンカーを打った艇だそうだ。

私の方は暫く様子を見てから少し近そうだと思いアンカーを伸ばしたが、それを見ていてそのお礼をわざわざ言いに来てくれたのだった。結構この世界は狭い。

昼間知り合ったブランドさんが夕方来て、艇で味噌汁、ひじき、胡瓜モミ、五目ずしをご馳走する。

9月22日（日曜日）Kemer 晴れ

レンタカーが朝9時半に届く。今日は Tahtali 山、Olinpos と Yanartas を廻る予定だ。最初にタタリ山に行く。この山の頂上は2363m あり、海から繋がるようにそびえ立っている。ケーブルカーの始発点は標高700m にありケーブルカーで一気に2363m迄上る。

頂上からは地中海が一望できる。冬はスキー場になるそうだ。地中海を見ながらのスキーも粋なものだと思う。又ここはパラセールの基地がありお客さんをのせて離陸していくのを見る事が出来た。次に Yanartas に行く。ここは岩盤から火が燃えているが2500年前から燃え続けているそうだ。ギリシャ時代からの“火と鍛冶屋の神 Hephaistos を祭った神殿跡がある。

そしてそのすぐ近くの海岸沿いにオリンポスがある。ここは紀元前2世紀に建てられたリキヤの都市がありその後ビザンチン時代まで栄えた都市だったそうだ。都市の間に川が流れ三方は岩壁に囲まれ開かれているのは海だけで防御に最高のロケーションに都市ができていた。

途中お昼は田舎のホームメイドレストランで食べたが日本の味付けに似て美味しかった。帰りに大きなスーパーマーケットに寄り食料を買い込む。夕食は野菜サラダ、大根とツナの和え物、ステ

一キを赤ワインで頂く。

9月23日（月曜日）Kemer 晴れ

今日はここから40km程北にある大きな都市 Antalya に行くのでレンタカーを返しがてら9時過ぎにバスターミナルに行く。約1時間でアンタリヤに着く。トルコのバスは都市から都市までは便利だが遠距離を走るバスはオトガルと云う郊外にあるバスステーションに停車して、其処からミニバスないしタクシーで市内に移動しなければならない。

行くところは大概、初めての土地になるので結構バス移動は苦勞する。アンタリヤも町の中心部から離れたところに着き、人に尋ねて教えてもらい中心街に行くミニバスに乗る。トルコでは道を尋ねるとほとんどの人が親切に教えてくれるので助かる。英語が分からない人に尋ねると分かる人を呼んできて教えてくれるほどだ。

旧市街地のカレイチは港を中心にしてギリシャ、ローマ時代の遺跡があり旧市街地の城壁の入り口にはローマ時代のハドリアヌス門が形よく残っている。ビザンチン時代の教会を1373年にイスラム寺院に改修したイヴェリ・ミナーレはカレイチのランドマークになっている。

その後食堂街でお昼を肉とハウレンソウをパンで挟んだトルコ料理を食べる。ビールが無いのでアリアンと云うトルコ独特のヨーグルト風味の飲み物を飲む。食後はカレイチ博物館に寄り19世紀のオスマン時代の人々の生活模様を見学して帰る。

帰ってからハمامに皆で行く予定だったがお店が閉まっていたので諦め、6時からのハッピーアワーを使ってマリーナのナビゲターと云うお店で一杯飲む。夕食はいつもの野菜サラダ、鶏のから揚げを残りの五目寿司、ひじきで頂く。

季節も少し秋の気配で朝晩は涼しいくらいになっている。



9月24日（火曜日）Kemer 快晴

今日は今年で3回目の乗船になるロシア人のピアニストのリサさんが朝アンタリヤの空港に到着する。ブラントさんが親切に空港まで一緒に迎えに行ってくれことになり9時30分過ぎに約50km先の空港に行く。予定通りイスタンブールより到着で元気な姿で現れた。

CAVOK5に着いてからラトーユとスペイン風オムレツを頂く。今日の夜からカッパドキアに2泊4日で行くので冷蔵庫の整理もあった。4

人でマリーナの隣の海水浴場に泳いでから、マリーナ内にあるレストランで早い夕食を食べる。

19:50にブランドさんが迎えに来てくれオトガルに行き 20:30 発のカップドキア(ギョレメ) 行きのバスで9時間のバス旅行になる。

トルコの長距離バスは大変良く、イスはゆっくりした間隔で、車内では飲み物、クッキー類もサービスしてくれる。途中の休憩所も完備して学生以来の夜行バスもさほど苦にならずギョレメに7時過ぎに到着する。丁度朝でバルーンが空一面飛んでいて朝日がバルーンを照らし印象的だった。

9月25日（水曜日）Kapadokya 快晴

カップドキアのギョレメに着いて朝早いのでホテルの部屋に入れないのでフロントで手続きをしてからホテルの朝食をサービスしてもらう。部屋が10時過ぎに準備が出来たので部屋に入り一眠りしてから、ギョレメの町を散歩してお昼を食べる。

ハリエットさんは、ここから1時間位離れたところにあるカイセリ空港に彼女のお友達が来るので迎えに行く。

ハリエットさんのお友達のジェミーさんが15時過ぎに到着して、5人全員が揃いギョレメ野外博物館を見学に行く。12~13世紀に造られた岩窟教会が30以上あり、保存状態の良いフレスコ画が岩窟教会の壁画で見る事が出来た。

夕食は地元レストランでメゼ、野菜サラダ、ライス添え牛肉と野菜炒め、地元料理のチキンのポットシチュウを5人で食べるが支払は72TL(約3600円)美味しい料理を食べてこの料金だった。

夜行バスで来たのと明日朝早く熱気球に乗りに行くので早々にホテルのベッドで疲れた体を休める。

このホテルは Traveller's Cave Pension という所だがスタッフが親切で、お部屋は清潔、簡素でテラスからは遠くにローズバレーを見渡せる景色の良いロケーションで豪華なホテルを望まないのなら観光旅行には最適のホテルだ。料金も安く2人一泊45EUであった。お奨めだ。

9月26日（木曜日）Kapadokya 快晴

昨日予約しておいた熱気球を乗るために朝5:30の迎えのバスに乗る。

朝食をバルーン会社のサルーンで食べてからバルーンの離陸する地点にバスで行く。既に数十のバルーンが離陸していた。数えてはないが100近いバルーンが既に飛び始めたり離陸の準備をしたりしていた。



バルーンから見る雄大なカッパドキアの景色は見ごたえがあった。パイロットは見事にバルーンを扱って地上800mの高さから岩と岩の間にまで降下したりして楽しませてくれた。

その後レンタカーを借りてローズバレー、ユルギュップム、スタファパジャ等を観光する。凝灰岩の奇岩そして何処も岩壁に掘られた岩窟教会があり、岩窟を利用した住居やホテルがあり見どころがあった。

途中アイワリでポツンと一軒だけあるホテルレストランで昼食を食べるが40TL のコース

であったが大変美味しいトルコ料理だった。

夕食はホテルのテラスでカッパドキアの風景を見ながら町で仕入れてきたギョズレメ、チキンロール、フライドポテト、ドライフルーツを5人でワインを飲みながら楽しむ。

9月27日（金曜日） Kapadokya 快晴

今日はデリンクユの地下都市とウフララ溪谷に行く。地下都市は8階まであり紀元前3000年前のヒッタイト時代から掘られていたようだ。この地下に4万人が住んでいたそうで現在残っているのはビザンチンの時代の物だそうだ。当時アラブ人、ペルシャ人の来襲に対しての避難所でもあったそうだ。

中にはワインセラーから牛小屋まですべて備えてあり、その跡を見る事が出来た。一見の価値あり。次にウフララ溪谷に行くが溪谷自体はそれほど驚嘆するものではなかったがここも岩壁に岩窟教会が残っており外敵から襲撃を受けても絶好の身を隠す避難場所でもあった。

ホテルに戻ってから、5人組の最後の晚餐を取ってハリエツト、ジェミーさんと別れて22:00発の夜行バスで3人はケメルに戻る。

大変楽しいカッパドキアツアーを5人で出来た。やはり圧巻はバルーンからのカッパドキアであった。カッパドキアの観光範囲は広いので、観光バスかレンタカーがお勧めだ。

9月28日（土曜日） Kemer～Cineviz（16NM）快晴 南5～10ノット

朝8時前にケメルのオトガルに着く。朝食を町で食べるが観光地なので朝食料金が安い。旅慣れたリサはレストランでスペシャルメニューはないかと確認したら地元用の朝食がメニュー以外にあり食べることが出来た。これが今まで食べた事のない味だったが特別に美味しかった。卵、トマト、ペッパー、チーズをオリーブオイルで炒めたもので鉄なべのまま出て来た。

今日は錨泊する予定なので食料を買ってから11時過ぎにマリーナを出て16NM 南の入り江に行

く。

お天気は典型的なアンタリヤ地方の風で午前中弱い北風、午後南風に代わり3時過ぎから若干強くなるパターンが続いている。南風の強くなる前の13:30に Cineviz の入り江にアンカーを打つ。前日も錨泊して海底も知っているので安心して水深10mの砂地の上にアンカーを打った。

お昼を食べてからお昼寝したり泳いだりゆっくり休む。夕食はリサの作ったサラダ、チキンカツをカッパドキアのワイナリーで仕入れた赤ワインで頂く。こんな入り江で数日過ごしたいと思っているが明後日リサがオーストリアに帰るので今回も一晩の錨泊になる。

今回は新月で星が良く見えた。コックピットで夜を過ごすのがうたた寝すると寒くなりキャビンに潜る。静かな夜だ。

9月29日（日曜日） Cineviz～Kemer（16NM）快晴

雲一つない青空だ。朝食は昨日お店で食べた地元朝食料理を悦子が作ってくれそれを食べる。ほぼ似た味でなかなかの味だ。悦子のレシピが増えた。

午前中10mの海底が見えるきれいな海で泳ぐがドクターフィッシュが体に纏わりついてきて可愛い。ドクターフィッシュと写真を撮る。お昼カレーライスを頂いた後、14:30にアンカーを揚げる。しっかり砂に食い込んでいた。

追い風になる南風を受けて4～5ノットの速度で、のんびりセーリングでケメルに戻る。1年間の係留の契約をしたので暫くケメルがホームポートになり、安心して錨泊も出来る様になった。夕方17:40にマリーナに係留するが場所が変更して別の位置になった。この場所が今年の越冬の場所になるようだ。

早速買い物兼ねてブレンドさんのお店に行く先日購入した水パイプを受け取る。ブレンドさんに肉屋に案内してもらいラムチョップを買う。今晚はリサさんの最後の日なので、ヤサイサラダ、ラムチョップで夕食を頂くがラムの肉が柔らかくとっても美味しかった。

9月30日（月曜日） Kemer 快晴

朝リサと隣の海水浴場で泳いでから、週に一回の野菜市が今日あるとの事でブレンドさんに迎えに来てもらい行くが、大変大きな規模の市で新鮮な野菜、果物があらゆる種類豊富にあり悦子は沢山の種類の野菜を買っていた。又魚のお店もあり新鮮なエビ、イワシがありこれも購入する。

今日はリサが15:30のアンタリヤ発の飛行機に乗るので、13時にマリーナからタクシーで空港に向かう。見送った後悦子とラーメンのお昼でビールを飲みながら食べて、午睡する。

夕方又泳いでからシャワーを浴びて夕暮れ時を茹でたエビとビールで楽しんで夕食はイワシの酢締め、トマト、オクラで頂く。久しぶりの日本食はホットする。

隣の艇は朝早く出て行ったが、夕方には2艇隣に入ってきた。隣の艇はかなり年配のご夫妻だったがコンビネーション良く係留していた。

10月1日（火曜日） Kemer 晴れ後曇り 南風強くなる

春にギリシャのエーゲ海で一緒した S46 年卒の後輩上田佐和子さんがキプロスへのクルージングに参加することになり4日にアンタルヤに到着することになったので6日にケメルを出港して17日にここケメルに戻る計画をした。

4日までは艇の手入れをしながらここケメルでゆっくり過ごすことにした。丁度今まで続いていた好天も前線の通過で今夕から明日にかけて崩れてくる。

昨日は野菜の市場であったが今日は衣服のバザールがこれまた大規模で開催された。どちらも週一回で月曜日と火曜日に行われている。ケメルはロシア人のリゾート地にもなっていてロシア人の観光客が多い。

ヨーロッパのブランドのコピー商品が多く出回っているがトルコブランドの革製品は品質が良く良い買い物になる。ブランドさんのお店に寄りボーダーフォンの店まで連れて行ってもらいインタネットキーの継続の手続きに行く。

夕方海水浴場で運動がてら泳ぐ。いつものようにシャワーを浴びて昨日の茹で海老で一杯楽しむ。夕食は二人だけになったので純和風 味噌汁、イワシのフライ、高菜でご飯を頂く。

10月2日（水曜日） Kemer 曇り

昨日夜半から雷光と共に雷雨が降る。寒冷前線の通過だ。秋の気配を感じる。何か月ぶりの本降りの雨だ。確か4月以来の様な気がする。

朝起きると雨も止んで薄日が差してきた。プロパンガスが無くなったので交換に行く。ブランドさんのお店に顔を出したり、泳いだりして過ごす。

夕食はイワシの煮付け、トルコ風チキンシチューをいつも飲んでいるトルコ産白ワイン Angora で頂く。

10月3日（木曜日） Kemer 快晴後曇り 午後強風

寒冷前線通過で朝方は気持ち良い快晴であったが午後より雲が出始め北風が強くなり始める。毎日の海水浴も白波が立ち諦める。今夕 6 時 30 分よりマリーナに停泊している仲間のパーティーがある誘いを受けたので夕方参加する。長期にケメルに滞在している人たちが12, 3人程集まりマリーナのレストランで飲みながらお話をする。

台湾で船を作りここまで来たイギリス人、海のないウィーンから来たオーストリア人、南アフリカから来た人、イギリス人が多かったが彼らは自然にこのようなコミュニティを作ってコミュニケーションを楽しんでいるようだ。皆さんここケメルを本拠地として地中海を楽しんでいるようだ。

オーストリア艇とは 5 月にギリシャのキオス島で会ったとの事だったがこちらは覚えてなく失礼してしまった。単に挨拶をただけではこちらは記憶に残らず多々失礼をしてしまうのが残念だ。

夕食は艇に戻りチリビーンズをご飯で頂く。

10 月 4 日（金曜日）Kemer 快晴後曇り 終日強風

風が強いので夜 2 回ほど起きて舳れを確認する。気温も下がり半袖では寒くなってきた。明日から上田佐和子さんが乗艇するのもあり、風は強いが快晴なので午前中に艇のマットをを叩いて誇りを落としたりして艇内清掃をする。

午後ハمامに二人で行く。観光客相手のハمامだったが垢すり、マッサージと気持ち良かった。帰りにブレンドさんの所に寄りチャイとお菓子をご馳走になる。ロシア人の観光客が多く、お店は大変繁盛しているとの事だった。

確かに町にはロシア人が大勢買い物をしている。お店も多くあり、ロシア人の購買力で好景気のような町だ。今日夜アンタルヤの空港に着き、空港の近くのホテルで1泊する上田さんを明朝迎えに行くためレンタカーを借りる。

終日北からの強風で艇の風速計は瞬間 40 ノットを越えていた。海が荒れていたため海水浴は出来なかった。

夕食は味噌汁、昆布巻き、チリビーンズ、ご飯で簡単に済みます。相変わらず風は強く治まる気配なし。

10 月 5 日（土曜日）Kemer 快晴

天気晴朗なれど波高し。今日も風が強い。明日まで吹く予報だ。

朝 8 時半過ぎにアンタルヤ空港の近くのホテルに泊まって居る上田さんを迎えに行く。長旅の疲れもなく元気そうな上田さんと久しぶりにホテルのロビーで再会する。彼女は春のギリシャ航海に続いて 2 回目の参加になる。

その足でアルタリアの港を囲んだカレイチの旧市街地を観光して、お昼は前回行ったおばさんが目の前で作ってくれるチーズ、ハウレンソウ、ひき肉が入ったクレープのギョズレメとトマトオムレツを食べる。地元料理で美味しかった。

ケメルへの途中で国立公園のギョイヌク(Goynuk)渓谷に行き散策する。清流の中の川床の小部屋があり景色を見ながらチャイを飲むが中々粋であった。今日から 3 人になるのでミグロスと云う

こちらの大きなスーパーマーケットで食料の買い出しをしてブレントさんのお店に寄りお菓子とチャイをご馳走になり帰艇する。

急に寒くなり夕方は上着が無いと寒い。コックピットでの食事は寒くなり艇内で食事をするようになった。2、3日前まで気持ち良かったのに寒冷前線が通過して寒気が流入しているようだ。7日からキプロスに行く予定だが7日朝まで強い風の予報が出ているので用心して計画をしたい。

今晚のメニューはサラダ、ラムチョップ、キノコとズッキーニの炒め物をご飯で頂く。

10月6日（日曜日）快晴

まるで見事な青空で近くに見える岩山とのコントラストが見事である。

朝食後ショッピングを兼ねての町の観光に行く。お客さんの90%はロシア人だそうだ。イミテーションの品物が沢山並んでいるがトルコの革製品は品質が良い。

お昼にブランドさんを誘って地元の人に行くケバブの店に行く。牛のケバブを食べるがジューシーで美味しかった。帰りに海岸に寄って艇に戻る。

夕食は鶏のシチューを頂く。夕方になり風も治まってきたので明朝の風の具合を見て出港することにする。次の予定地の Alanya まで67NM あるので早朝の出港を予定する。

10月7日（月曜日）Kemer～Alanya（67NM）快晴 北20ノット～5ノット

朝日の出前の6時過ぎに起床したらマリーナ周辺は風も治まっているのと、海上も午前中は20ノット前後の北風の予報なので出港することにする。

7時に舳いを解くが出港と同時に日の出になった。30分ほど機走しているうちに北風が吹き出しセーリングに移る。暫くすると風も強くなる予報なのでジブセールはリーフしてあげる。徐々に風が強まりメイン、ジブセールとも3ポイントリーフにするが風は北から船は東へと20～25ノットの風の中7～8ノットの速度で快調に飛ばす。日没が夕方6時過ぎになっているので18時前に着きたいので助かる。

昨日までの風の影響で波が若干あるがお昼は昨日の鶏シチューを温めてくれ美味しく頂く。お昼過ぎから風が弱くなり機帆走に移るが残りの3時間は風が無くなり機走する。17時20分に Alanya Marina に係留する。平均6.7ノットで走ったことになる。

夕方日本人の女性フミさんが声をかけてくれた。ドイツ人のご主人とこの10年間夏を地中海で過ごしているそうだ。アランヤには2年間係留している。話の中で査証の話が出て我々の大きな問題があるのが分かった。

トルコはビザ無で90日間滞在出来たが2012年より制限がEUと同じになり180日間で90日の滞在となった。我々は6月にトルコに入国して8月に一旦帰国9月より再入国してクルージングを続けていた。その時の理解は一度出国すれば再度90日滞在が出来ると言う以前のルールの認識だった。既に通算3か月15日の滞在だ。

明日に北キプロスの出国するのだが出国はペナルティーを払えば出来るが、再入国は拒否される可能性が出て来た。インターネットで外務省のウェブで調べると渡航中に90日過ぎた場合は地元の管轄警察で手続きを行うよう書いてある。明日フミさんが相談に乗ってくれるということなので解決を図りたいと思っている。

結構重たい問題を抱えてしまった。夕食はサラダ、ポークチョップを頂く。

10月8日(火曜日) Alanya 快晴

アランヤのマリーナは静かで係留艇も比較的少ない。フミさんと一緒にマリーナのスタッフにビザの件を聞くが、警察で確認してくれと云う事なのでフミさんと一緒に警察署に行く。かなり厳しい状況である認識をしていたが問題は一気に解決した。



地元の警察署の担当者は非常に好意的で通算3か月15日居たので15日分のペナルティーとして100TLを支払うように、そしてもし長くトルコに居るなら1年滞在の査証を発行してくれるとの事だった。通常地元で査証を発給してもらうには2週間以上かかる。そして事情を話したら明日発給してくれるとの事で大変助かった。

に向けて出国も出来るし、再入国も出来る様になった。

警察署の人は親切で我々にコーヒー迄ご馳走してくれた。トルコ人の日本に対する好意が身に染みて感じた。これでキプス

夕食にフミ夫妻を艇に招待して日本食、高野豆腐とオクラの煮物、揚げナスのお浸し、胡麻和えのイワシ、野菜和風サラダ、南ドイツ風ジャガイモサラダ、栗ごはん、稲荷寿司を上田さん持参の日本酒で頂く。



10月9日(水曜日) Alanya 快晴 微風

予定通り今日1年間のビザを受け取れるか一抹の不安を持ちながら今回途中から手続きを手伝ってくれているフセインと9時にマリーナの事務所で待ち合わせて、警察署に行く。

細かい書類の手続きをした後、夕方4時にビザを発給してくれるということでそれまでアランヤの城塞と旧港そしてクレオパトラ海岸の観光に行く。

アランヤの城塞の歴史は古いが1200年代のセルジューク朝時代に原型が造られている。ここからの地中海の眺めは雄大で美しかった。旧港はもともと密輸船の基地であったそうだが現代では観光用の海賊船が並んでいた。

クレオパトラ海岸は何キロも続く砂浜の海水浴場で10月になっても海水浴客がパラソルで沢山日光浴をしていた。

16時に警察署に行きビザの発給を待つ。暫くしてから発給の事務手続きをしている人が直に呼んでくれその場でビザを手渡してくれた。通常ではビザの発給迄2週間以上要するのにたった2日で発給してくれた。まさにトルコ人の感情が日本人に好意を持っているのがここ警察でも感じた。

これでキプロスに出国出来る様になったので、マリーナで出国の手続きをお願いする。明日の夕方には手続きが終わるといことなので明日夕方にキプロスに向かうことにする。

夕食は前菜の後カレーライスをご馳走になる。

10月10日(木曜日)～11日(金曜日) Alanya～Girne(Cyprus) (100NM)快晴 西5～10ノット

暫くお天気も良く風も安定しているのでナイト帆走も楽に出来そうなので上田さんも来たことだし今晚アランヤを出港して一気に100NM先のGirneに行くことにする。出国の手続きが終わり17時にパスポートがエージェントから届き17時30分にWendy号フミさん、ご主人のフバーさんに見送られてアランヤを出港する。

日没は18時過ぎで19時には暗くなるようになったのでカレーうどんの夕食を出港してから直ぐ頂き、微風の中機帆走する。

22時過ぎに西から北北西の10ノット弱の良い風が吹き出し、帆走に移る。23時まで上田さんがウオッチをしてくれ私はコックピットで横になり休んでいたが23時より交代する。艇速は5ノット前後でゆっくりだが時間的に余裕があるので翌朝11時まで帆走を楽しめた。

風が後ろからの関係もあり夜も寒さを感じず快適なナイト帆走を楽しめた。夜半2時頃には月も沈み満天に輝く星空を見ながらの帆走だった。朝方夜明け前に上田さん、悦子が起きてきて味噌汁とお握りを用意してくれたので頂く。

昼前に風が弱まり機帆走にする。予定通り14時にギルネのデルタマリーナに舫う。ここは旧港から1NM位離れたところにあるコマーシャルハーバーの一角にある比較的小さなマリーナだ。

明日旧市街地を観光することにする。キプロスは学生時代観た、ポールニューマン主演の「栄光への脱出」の舞台になったところで昔の画面を思い出した。

殆ど寝てなかったので早めの夕食を艇でして早々に寝る。

10月12日(土曜日) Girne 快晴

旧市街地観光に行く。ここから歩いて 20 分ぐらいと云うことで歩いて行くが、途中疲れてもいけないのでタクシーを拾う。オールドハーバーに最初行くがヨーロッパのオールドハーバーは何処に行っても昔の面影があり素晴らしい景観だ。

この港はフェニキア時代からの歴史があり後で行った沈没船博物館にはフェニキア時代の船がサモス島、コス島、ロードス島を經由してギルネ港に入る手前で沈没した 2300 年前の船が引き上げられ展示したあった。この船のお蔭で当時の交易の様子が鮮明に分かったそうだ。

ハーバーの後は港に隣接したキレニア城に登る。この城は十字軍が作ったリュージニヤン帝国が砦から堅固で大きな城に拡大する。その後ビザンチン時代に要塞化された。1571 年、オスマン帝国が侵攻すると無血開城され、トルコ風に改修された城だ。

お昼は旧港を見渡せるレストランで食べる。ギリシャ人が話かけてきて本人は貨物船で度々日本に来たことがあるそうだが、一緒に居た奥さんはもともと北キプロスに住んでいて南北分裂の時に南に移らざるを得ず、昔の家を見に来ているそうだ。

今晚イスタンブール在中の奥村純代さん(A 級デンギーの関係で江原さんから紹介して頂いた方)が来るので 15 時には艇に戻る。

夕食のニンジンサラダ、ヤサイサラダ、チキンカツ、焼き飯を頂いて一休みしていたら 21 時過ぎに外から奥村さんの声が聞こえてきた。早速歓迎の飲み会を始めたが女性陣が寝たのは夜中の 2 時 30 分になっていたそうだ。

10 月 13 日 (日曜日) Girne 快晴

ゆっくりした朝食を食べた後、ミニバスで北キプロスの首都レフコーシャに行く。

キプロスは 1960 年にキプロス共和国としてイギリスから独立したが、その後ギリシャ系住民とトルコ系住民との間で紛争が起こり 1983 年に北部地区が北キプロス共和国として独立宣言をした。(ただしトルコ以外の国は国として認めていない。)

レフコーシャは円形の城壁に囲まれている。城壁の中にはオスマン朝時代のモスクやキャラバンサライ等の建物があり、又イギリス統治下の時の英国調の建物も当時をしのばせるように残っている。

北と南の緩衝地帯にある英国調の建物を覗いていると、中に居る人が中を見ていくよう勧めてくれたので 100 年前の建物の中を見学する。住んでいる方はロイヤーでここを事務所として使っているそうだが 2 階の執務室は昔の儘の調度品が並んでいた。

いろいろキプロスの歴史を利かせてもらいトルココーヒー迄ご馳走になった。貴重な経験が出来た。ギルネに戻って奥村さんの知り合いがやっているイタリアレストランに行くが久しぶりのイタリア料理を美味しく頂く。家庭的な雰囲気ですてきな食事でお奨めのレストランだった。

10月14日（月曜日）～15日（火曜日） Girne～Kemer（155NM）快晴 微風 朝方北風5～15ノット

今日からクルバンバイランと呼ぶ犠牲祭の4日間の休日に入る。これはイスラム教の宗教儀式でラマザンが終わってから70日後に巡礼者が神に生贄を捧げるお祭りの日だ。

今日はその関係で13時マリーナその他の業務も終わりになるのでその前に出国の手続きをして出港することにした。12時に手続きがすべて終わった。当初手続きが終わった後艇でゆっくり休んで出港しようと思っていたが直ぐでないとペナルティーがかかるとの事で12:20に当初の目的地50NM先のAlanyaに向け出港する。

午前中は風が強く白波が立っていたが午後からはこの風が治まり波だけ残った中を機走する。途中後ろからの微風が吹き出したので帆走するが3～4ノットの微速であった。出港が予定より早くなったのでアランヤの到着時間が早朝になるので、それならはで155NM先のKemerに目的地を変更する。

日没は早くなり18:15であった。その前暗くなる前に鳥かつ丼を夕食に頂く。今日は徹夜になるので夕食後22時過ぎまで私は休ませてもらい上田さんと女性陣にウオッチを任せる。

月明かりに照らされた非常に静かな海で月夜の晩の航海を楽しむ。月が3時に沈んだ後は星が綺麗に見えた。朝方6時から北の順風が吹き出し帆走を12時までですがその後風が治まり機走に変える26時間の行程のうち20時間機走の航海で会った。

15:20にこれから1年契約したケメルマリーナに舫う。入国の手続きをマリーナにお願いしたがバイルンの休みの関係ですんなりいかずパスポートのスタンプが押して貰えなかった。

火曜日でここは衣装のバザールがある日なので行く。イミテーションのブランド商品が一杯ならんでいた。帰りにブランドさんのお店により、いつものようにチャイをご馳走になる。

徹夜の航海で疲れていたので帰りにピデ（ピザに似たトルコ料理）を買って帰り艇で食べる。

10月16日（水曜日） Kemer 快晴

海水浴場で海水浴をゆっくりしていないので今日は日中海水浴を楽しむ。11時頃マリーナの隣のロングビーチの海水浴場に行き、ボンボンベッドを借りたら1脚10TLした。浜辺にボンボンベッドが沢山並んでいたが80%は埋まっていた。

お昼は昨日買ったお店でピデを買ってきて浜辺で食べる。

夕方16時頃までのんびりしてからマリーナに戻りシャワーを浴びてコックピットで一杯やっているのと18時からハッピーアワーでここに長期係留している人たちがマリーナのレストラン“ナビゲター”で集まる。声を掛けられ2回目の参加をする。

前回より多く20名近く集まった。そろそろ皆さん艇を片づけ本国に帰る準備をしている。大体ヨーロッパの人達も10月終わりに帰国して春4月より活動するのが多いようだ。その後町に行き明日

の観光の為レンタカーを借りる。

夕食はインドカレーを頂く。

10月17日（木曜日）Kemer 寒冷前線通過で大雨、強風

レンタカーでケメルから約 110km東のシデに豪雨の中向かう。途中で雨も止みシデ観光を楽しめた。紀元前 7 世紀頃からギリシャ人によって造られた植民地で、ローマ時代の遺跡が広大に広がっていて円形劇場含めて見応えがあった。Side の港は評判通りの不安全の港で今日の南風で入り口は波が立ってまったく入港出来ない状態であった。

その後 Aspedos に行く。ここもローマ遺跡が素晴らしく、ローマ劇場がほぼ完全に保存されていた。



次の Perge には紀元前2世紀に造られた楕円形の競技場、大劇場はじめ素晴らしい遺跡が残されていた。いずれも近々世界遺産になると思う。

空港でキプロスから一緒だった奥村さんを送って戻る。艇に戻ると、岸壁と艇をつなぐ梯子の付け根が今日の強風で壊れてしまっていた。夕食は昨日の残りのカレーライスを頂く。

10月18日（金曜日）Kemer 快晴

明日上田さんが帰るので最後の買い物をする。

10月19日（土曜日）Kemer 快晴

上田さん 14:15 の便で発つのでブランドさんに送ってもらう。途中ブランドさんの家に寄りお父さん、お母さん、姉妹に会う。丁度パンを焼いていたので見学させてもらう。各自担当があり分業で上手く焼いていた。1年半前の新築で3階建の大きな立派な家だった。



悦子を残して空港まで行き上田さんを見送る。その後一度悦子を拾い艇に戻り、夕方 7 時にブランドさんのお店に行き彼の家に再度送ってもらい夕食をご馳走になる。

絨毯の上に座って食べる純トルコ風の食事であった。

その晩は泊めてもらい翌日送ってもらう。

10 月 20 日（日曜日）Kemer 快晴 やや風強し

お昼にブレンドの甥っ子になる 12 歳の坊やを CAVOK5 に呼んでお昼を一緒に食べる。とっても素直な可愛い坊やで休みの時はブレンドのお店の手伝いをしている。

お昼のビールが効いて午後の作業は休んで昼寝そして海水浴をする。

夕方 6 時より集まるハッピーアワーに参加する。皆さん越冬準備のためにマリーナに帰ってきたのか前回より人数が増えて 20 人位集まった。10 日振りにケコバから帰ってきた南アフリカ艇に風の強かった時のケコバでの錨泊の様子を聞く。

夕食は残りの整理で来年に持ち越せないも物を食べる。